

登園してきた子どもたち。朝の準備が終わるとそれぞれの好きな遊びが始まります。

ひまりちゃんは「昨日のつづき！」と、続きのロッカーから持ってきた塗り絵を塗り始めました。



次々に「何やってるの？」とお友達も寄ってきて、机上の遊びは塗り絵をやりたいお友達でいっぱい！「塗り絵って好きな色で塗っていいんだよ！」「正解の色とか無いからね」となんだか自信ありげにみんなに伝えるひまりちゃんの表情は「自分の好き！」を、みんなに共有できたことが嬉しい気持ちなのかな？なんだか認めてもらえた気持ちなのかな？と、嬉しさに溢れる表情で溢れていました。



そんなテーブルの横では「ここは何色がいいと思う？」とゆゆちゃんがかほちゃんにアドバイスを求めています。友達と一緒に考えるとさらにいいものができるかもしれない。ということ、この集団生活の中で自然と理解しているようにも感じました。

続きの保証が子どもたちの遊びを深め広げる



かいせくん作：ドローン・リモコン

遊びの続きを大切にしていくことで、子どもたちの遊びが盛り上がる瞬間があります。LaQもその一つです。

数日かけて大作を作る子もいれば、作った作品で遊び出す子も。そして、それに憧れを持つことで教わったり、教えたり。子ども同士の関係性も深まっていくことを感じます。

子どもたち自らのやりたい遊びを大切にしていくことで「得意！」が生まれそれによって「自信」へとつながる出来事が多々生まれています。

これからも子どもたちの「やりたい！」を大切に、子どもたちがおもしろがっている世界を共に楽しめるがっていきたいと思います。



ゆうとくん作：ドラゴン・トラック